

コミュニケーション・マインド

マインドとは

〔名〕 (mind) 心。理知。感覚。また、何かをしようという意向や考え。〔外来語辞典 (1914)〕

～精選版 日本国語大辞典より～

12世紀後半から15世紀前半において英語における mind は feels, wills, and thinks; the intellect, memory, remembrance, purpose conscious mind, intention, などが意味されます。

感覚または感情、意志、思考、知性、記憶、想起、想起された状態、目的、意識、意図など多様な意味が含まれています。

ベイトソンのマインド

文化人類学者であり、20世紀における「知の巨人」と呼ばれたグレゴリー・ベイトソンによるとマインドとは以下のように説明されています

マインドとは「やってくる情報に自己修正的に対応する能力をもったシステム」

ベイトソンのマインドを前提としたコミュニケーション・マインド

コミュニケーションしている人同士の間で、話し手が発した言葉、ジェスチャー、臭い（例えば香水）や感覚（身体に触れる事）などに対して、聞き手が自分の言葉やジェスチャーを修正しながら対応する知性、思考、精神などです。

コミュニケーション・マインドの目的

コミュニケーション・マインドをどのようにセットするかによってコミュニケーションの結果が変わってきます。

言い換えると、二人の人間のコミュニケーション・マインドの結果が、二人の取ったコミュニケーションの結果です。

お互いに理解と共感を求めるマインドをセットするならば、二人の間はそのようになっていきます。

これはビジネス・医療・教育などあらゆる分野で同様であり、さらに言えば家庭、地域コミュニティ、国家、自然界へ広がるとベイトソンは考えています

コミュニケーション・マインドの構成要素

コミュニケーション・マインドをさらに深く検討していくと、色々な私たちの精神的な要素によって構成されていることがわかります。知覚、思考、感情、信念・価値観、アイデンティティなどがあります。

知覚とは、外界または自分の内部から入ってきた感覚刺激を受け取り感覚の質（サブモダリティ）を弁別することです。

古代ギリシア哲学者のアリストテレス（紀元前 384 年 – 紀元前 322 年）は、2300 年前にいわゆる五感と呼ばれる視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚についてすでに説明しています。現代では、さらに身体内部の情報を受け取る運動覚・平衡覚・内臓覚を加えて 8 種類の情報を受け取る事を感覚と言います

思考（認知、認識、推論）とは、今ここで知覚された情報、過去の記憶、未来に対する予測などを組み合わせて、論理的に結論を出すプロセスです。

そして思考は基本的に言語によって行われます。視覚的イメージや身体感覚も当然使いますが、言語が思考の主役となります。

感情とは、内的状態（上述した内臓覚）と外的行動の組み合わせです。（メタ K とも呼ばれます）内的状態は心臓がドキドキしたり、胃がキューっとなったりする感じです。

外的行動は泣いたり、怒鳴ったり、表情が変わったりすることです。そしてそのような事が起こるのは、私たちの自律神経系とも関連しています。その結果として喜び、怒り、悲しみ、驚き、恐れ、不安などの感情が起こります。それらの感情の原因の一つに私たちの信念・価値観が関係しています。信念・価値観とは、私たちが自分自身や他の人、そして周りの世界に対する基本的な考え方です。信念と価値観は厳密には別の概念ですが、神経学的には自律神経系の反応が起こるという意味でセットで考えられることが多いです。そして「なぜ？/why？」という質問に対する答えは、信念・価値観になります。

アイデンティティとは、私たちが自分自身をどのように認識しているかと言う事に関する事です 自己認識とも訳されます。「あなたは誰ですか？」という質問に対する答えです。いわゆる名前はそれの最も表層部にあるラベルです。アイデンティティは、もっと私たちの本質的な部分です。私たちが、社会の中で存在するために果たさなくてはならない役割です。さらに言えば、この世界に生まれてきて果たさなくてはならない使命でもあります。

コミュニケーション・マインドの拡張

「やってくる情報に対する自己修正能力」をマインドと定義するならば、その情報源は大自然からもやってきます。大自然からのメッセージに対して、私たち一人ひとりがどのように自己修正し、対応するのか？

そのような事を考えることもコミュニケーション・マインドです。

3.11の東北大震災から何を学ぶのか？2020のコロナショックから何を学ぶのか？これも大自然から与えられた宿題であり、考え続けなければなりません。

人間と人間を越えた大きな自然とのコミュニケーションにおけるコミュニケーション・マインドがある一方で、人間と人間を構成している部分（サブシステム）の間にもコミュニケーションは存在しています。

身体症状は、一つのコミュニケーションです。

例えば、「頭が痛い」という症状は、パソコンやスマホの「使い過ぎ」という行動を抑制するためのメッセージかもしれません。あるいは「脳の中に重篤な問題が起こる予兆」というメッセージかもしれません。

身体からのメッセージに対して、どのようなコミュニケーション・マインドをセットするのかによって、時に命にかかわる事もあります。

私たちのコミュニケーションが可能となるのは、私たちのコミュニケーション・マインドによるものです。

結論

知覚、思考、感情、信念・価値観、アイデンティティをどのようにセットするのか？言い換えるとコミュニケーション・マインドをどのようにセットするのかによって、コミュニケーションに大きな影響を与えていきます